

○ 委員長報告

6月定例会本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

平成28年6月定例会

経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、営業本部の活動状況についてであります。

このことについて一部の委員から、「すご味」・「すごモノ」データベース販路開拓支援事業を含め、営業本部の取り組みについては評価するところであるが、これまでの活動状況や今後の方針はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、これまでの営業本部の活動実績については、平成27年度の県関与の成約額が89億5千万円となり、目標額70億円を大きく上回る実績を残している。

しかしながら、日本を取り巻く経済情勢は、新興国経済の景気減速や国内消費の低迷等、大変厳しい局面にあると認識しており、平成30年度の目標額100億円の達成はもとより、前年度の実績を下回ることもあり得るとの強い危機感を持ち、気を引き締めて取り組む必要があると考えている。

このため、今後も、これまでに獲得した取引先との関係を継続するため、丁寧なフォローアップに努めるなど「補助エンジン」としての役割をしっかりと果たしていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、愛媛セルロースナノファイバー関連産業振興事業についてであります。

このことについて一部の委員から、セルロースナノファイバー（CNF）には無限の可能性があると期待しているが、今後のCNF事業の取り組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では日本初のCNF産業県を目指すため、本県が早急に取り組むべき方向を示す「推進方針」を策定し、4月に「愛の国CNF関連産業振興プロジェクトキックオフセミナー」で発表したところ、140名、45社もの参加者が集まり、CNFへの関心の高さがうかがえた。

来月には、国の産業技術総合研究所やCNF製造企業である大王製紙のほか、

大手素材メーカーなどと「愛媛CNF事業推進検討会」を開催して、本県独自のバイオマス資源を活用したCNF実用化策等を検討するとともに、産業技術研究所が中心となり県内中小企業と共同で4つの分野別部会を立ち上げ、試作品開発に着手することとしており、「CNF産業県愛媛」の実現を目指して、産学官のオール愛媛体制で市場をリードしていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県立新居浜病院整備基本計画についてであります。

このことについて一部の委員から、基本計画策定に当たっては、利用者のいる地域の意見を反映させてほしいが、整備基本計画策定委員会の委員構成、検討期間、回数のご予定はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、委員については、公営企業管理者、愛媛大学医学部、新居浜市福祉部長、新居浜市医師会長、西条保健所長、県立中央病院長、県立新居浜病院長の7名を考えている。

自治体等の関係者は、新居浜市を考えているが、近隣自治体等の意見についても、医療圏の地域医療構想を所管し、病院への助言・指導等を行う立場から西条保健所を通じるほか、様々な機会を捉えて、適切に計画に反映させたいと考えている。

また、委員会は、第1回目を8月に行い、年内に合計3回程度開催し、整備基本計画案を取りまとめる予定である旨の答弁がありました。

このほか、

- ・今後の台湾との交流方針
- ・県内の既存立地企業に対する支援
- ・発電施設及び工業用水道施設の耐震化
- ・ドクターヘリ
- ・県立中央病院におけるPFI方式の効果

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。